

第1学年特別活動指導案

日 時 令和3年6月7日(月)5校時 13:45~14:25
 学 級 洋野町立大野中学校
 1年A組(男子20名 女子17名 合計37名)
 授業者 教諭 旭 紘太

1 題 材 名 「お互いの良さを認め合う学級集団を目指そう」

2 題材設定の理由

(1)生徒の実態

入学してから、2か月が経ち、体育祭などを通して人間関係などが少しずつ小学校の時よりも変化し始めている。5月11日に実施されたQUテストの結果では、「B いごこちのよいクラスにするためのアンケート」の項目では以下のような結果となった。

	項目	マーク番号				
		5	4	3	2	1
1	勉強や運動、特技やひょうきんさ(おもしろさ)などで友人から認められている。	12	15	6	2	2
2	私はクラスの中で存在感があると思う。	9	12	10	6	0
3	自分を頼りにしてくれる友人がいる。	13	15	7	2	0
4	学校やクラスでみんなから注目されるような経験をしたことがある。	12	9	10	3	3
5	自分の考えがクラスや部全員の意見になることがある。	7	18	8	5	2
6	クラスで行う活動には積極的に取り組んでいる。	24	9	3	0	0
7	学校内で私を認めてくれる先生がいると思う。	16	14	5	1	1
8	仲の良いグループの中では中心的なメンバーである。	14	11	5	5	2
9	自分が何かしようと思った時、協力してくれるような友人がいる。	25	7	4	0	1
10	学校内に自分の本音や悩みを話せる友人がいる。	16	10	6	2	3
11	クラスの人から無視されるようなことがある。	0	1	2	9	25
12	クラスや部活動でからかわれたり、馬鹿にされたりするようなことがある。	1	1	1	6	28
13	授業中に発言したり先生の質問に答えたりするとき、冷やかされる時がある。	0	0	1	3	32
14	クラスメイトから耐えられない悪ふざけをされる時がある。	0	0	2	4	31
15	クラスで班を作るときなど、なかなか班に入れず残ってしまうことがある。	0	1	1	3	32
16	クラスの中では浮いていると感じることがある。	1	1	3	5	27
17	休み時間などに、ひとりでいることが多い。	0	1	3	5	18
18	クラスにいるとき部活動をしているとき、周りの目が気になって不安や緊張を覚えることがある。	3	2	1	10	18
19	学校に行きたくない時がある。	2	3	4	10	18
20	私はクラスメイトの友人関係についてあまり知らない。	2	3	4	11	17

アンケートは1から10までを「承認得点」のため、点数が高い方が良いとされる。11から20は被侵害得点なので、得点が低い方が良いとされる。5月の時点で多くの生徒が前向きに取り組むことができている。一方で、承認得点が低く、被侵害得点が高い生徒もいる。具体的には、18、「クラスにいるとき部活動をしているとき、周りの目が気になって不安や緊張を覚えることがある。」や19、「学校に行きたくない時がある。」を肯定的にとらえる生徒が多い一方、そうでない生徒も一定数いる。そういった生徒とは授業内外でのコミュニケーションや個別での相談を通して、学校生活をサポートしていきたい。必要であれば、カウンセラーとつないで、ゆっくり話す時間を設けるなど工夫が必要である。

生徒全員が学校へ行く意欲をもって生活するためには、生徒同士が対話を通してお互いに認め合える経験が必要になってくると考える。そこで、3、「自分を頼りにしてくれる友人がいる。」1、「勉強や運動、特技やひょうきんさ（おもしろさ）などで友人から認められている。」などの項目を向上させていくことをめざしていきたい。

(2) 題材観

本題材は、お互いに認め合える経験を培うことをねらいとしている。(1)で示したQUの結果からも全員が先生や同級生から必要とされていると感じる経験が必要であることがわかる。リフレーミングは自分の短所も見方を変えれば長所でもあることを知り、自己肯定感を高めるものである。この活動を通して生徒が今まで見てきた相手への考え方を考えるきっかけになったり、クラスの中での自分の必要感を高めることができたりすると考える。さらにリフレーミングをしてもらうことで、自己肯定感の向上や、相手が自分のことを考えてくれることを肯定的にとらえ、クラスの輪が今よりも広がる。お互いに認め合うことの素晴らしさやその価値に生徒が気付き、これからの生活に役立てていくことにこの教材は価値があると思い、授業の題材とした。

QUの結果を鑑みて、今回の題材では座席の配置を工夫し取り組んでいる。また、感想の部分ではQUでの分析結果をもとに、子どもたちが今日のリフレーミングから今後の生活にどう活かしていくのかをみとりたいと考えている。

この授業は中学校学習指導要領、学級活動(2)「日常の生活や学習への適応と事故の成長及び健康安全」A「自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成」に基づいたものである。指導要領より、「自分の個性をよく知り、自己を高めようとする努力が大切であることを理解するとともに、他者の個性を尊重することを通して、他者への思いやりを深めることが、集団活動では重要であると理解させる必要がある。」とある。さらに、「入学直後や学級編成替えなどにより新たな人間関係を築くことが求められる時期には、自分の長所・短所、友人への期待と励まし、自己の個性を知りそれを生かす方法などの題材を設定し、自らを振り返ると同時にグループや学級全体で話し合う活動が考えられる。」とある。以上の2点から、他者を認め合うリフレーミングの活動は上記の文言を土台にして行われるものと言える。

3 指導と評価の計画

(1) 内容のまとめりとごとの評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
自己の生活上の課題の改善 に向けて取り組むことの意義 を理解している。	自己の生活や学習への適応 および、自己の成長に関する良 さ課題を見出している。	他者の尊重と思いやりを深 めてよりよい人間関係を形成 しようとしている。

(2)一連の指導と評価

時間	ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的態度
4月の学校行事	<p>「学級開き」</p> <p>○ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの名前や好きなことを知る。 <p>○活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介シート 			積極的に新しい仲間とコミュニケーションをとり、新しい環境の中でより良い関係性を築いている。
朝の会及び帰りの会	<p>「班員の良さを見つけよう」</p> <p>○ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良さを見つけることや、良さを見つけてもらうことの喜びをグループで共有する。 <p>○活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の会で班員一人を取り上げ、帰りの会で「いいな」と感じたことをカードに書く。 			
学活(体育祭後)	<p>「自分たちが得た体育祭の価値を考えよう」</p> <p>○ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭反省をグループで見合うことでお互いに感じたことを共有し、1年生全員で次に目指していくことを考えていく。 <p>○活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに反省用紙を見合い、今年の体育祭で1年生が頑張れたことと、これからの生活で伸ばしていきたいことを班ごとに考える。 	異なった意見や、想いを共有し合うことの大切さ理解し、話し合いや相手の話を聞ける方法が身に着いている。		
道徳	<p>「自分の短所や長所を見つめてみよう」</p> <p>○ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短所や長所になるような言葉を見つけ、自分自身を見つめなおす。 <p>○活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな言葉が短所になるのか、また、どんな言葉が長所になるのかを考えさせ、自分にどれが当てはまるのかを考える。 		自分の短所や長所を考え、自己の成長や課題を話し合いを通じて見出すことができている。	

本時	<p>「リフレーミングを通してお互いの良さを知ろう」</p> <p>○ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リフレーミングの巧拙よりも、友達の問題に対して共感的に向き合う。 <p>○活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リフレーミング辞書を使って、お互いの短所を長所に捉えなおす。 ・リフレーミングをされたことやリフレーミングしたことの感想をグループで共有する。 		<p>普段の学校生活の中で自他ともに認めあうことの大切さに気づくことができる。</p>	<p>相手の短所をリフレーミングし、相手に関するエピソードを振り返ることで他者への尊重と思いやりを深める。</p>
朝の会及び帰りの会	<p>「班員の良さを発見しよう」</p> <p>○ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リフレーミングの活動を通して再度仲間に向け、より認め合える関係性を作る。 <p>○活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の会で班員一人を取り上げ、帰りの会で「いいな」と感じたことをカードに書く。 			

4 本時の学習

(1) 主 題 「リフレーミングを通してお互いの良さを再発見しよう。」

※手立て3（相互理解を深めるための構成的エンカウンターの重視）

(2) ねらい

- 自分の短所も見方を変えれば長所でもあることを知り、自己肯定感を高める。
- リフレーミングの巧拙よりも、友達の問題に対して共感的に向き合う。

(3) 評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
	普段の学校生活の中で自他ともに認めあうことの大切さに気づくことができた。	相手の短所をリフレーミングし、相手に関するエピソードを振り返ることで他者への尊重とおもいやりを深める。

(4) 展開案

	生徒の活動	○目指す生徒の姿 指導上の留意点
導入	<p>担任から取り組みをする理由や目指す姿を共有する。 「今クラスの中で問題を抱えている人がいるんだよ」 教師同士でリフレーミングの様子を見せ、リフレーミングしている様子を可視化しながら、生徒にこれから取り組む内容を理解させる。</p>	<p>生徒が今日の活動が生活の中で活かせると感じられるように導入を行う。</p>
展開	<p>課題 リフレーミングを通してお互いの良さを再発見しよう！</p> <p>(個人で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート「それっていいかえてみると…？」を活用して日頃、自分が性格的な短所な部分を考える。 <p>(ペアでの話し合い活動により)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前後の2人でワークシートを交換し、それぞれが書いた短所をリフレーミングする。 ・グループで1枚リフレーミング辞書を配布する。 ・辞書に載っていない短所は以下の二つの方法で考えさせる。 <p>1：似た意味合いの言葉をリフレーミング辞書から探す。 2：それでもない場合は、ペアで相談し、知恵を絞る。 どうしても出ない場合は、先生に相談する。</p> <p>(4人グループになる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人ずつリフレーミングした内容を発表する。 ・話す内容は全員一律で同じ言い方にする。 <p>例「○○さんは××なことを短所だと思っています。しかし、見方を変えればそれは◎◎という長所なのです。理由は〜〜〜ということをしてきたからです。」</p>	<p>相手の短所をからかったり、ふざけたりしないことを確認する。</p> <p>○相手の短所をリフレーミングし、相手に関するエピソードを振り返ることで他者への尊重と思いやりを深める。 [主体的態度]</p> <p>話し合いの座席を QU の結果に応じて替え、話しやすい環境を構成する。【手立て3】</p> <p>拍手が起こるなど温かい雰囲気の中発表させたい。</p>
終末	<p>(4人グループでシェアリング)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リフレーミングしてみた感想と、リフレーミングされた感想をそれぞれ書き、発表しあった4人グループで感想を共有する。 <p>(予想される感想)</p> <p>「今まで短所だと感じていたことがプラスに捉えてもらい、嬉しかった。」 「あまり話したことない人とももっとかかわっていいところを見つきたい。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想を発表しあった後、数人に感想を発表してもらい、全体で共有する。 ・最後に担任から今日の活動の意味や、考えてほしかったことを全体で共有する。 	<p>QU の結果に基づき、教師が活動の中で学校の声かけ集を参考に机間巡視を行う。【手立て3】</p> <p>○普段の学校生活の中で自他ともに認めあうことの大切さに気づくことができる。 [思考・判断・表現]</p> <p>振り返りでは、発言に意味を持たせるために、意図的な指名で発表を促す。</p>